
株式会社 ワークマンシップ

1988年8月、日本CDC株式会社（Control Data Corp. Japan）から国内で唯一、正式にCDC製品の保守を委任されました

弊社は、コントロール・データ コーポレーション（CONTROL DATA CORPORATION）の日本法人である『日本シーディーシー株式会社』の、保守サービス部門であった「エンジニアリング・サービス部」の保守サービス事業を譲り受け、**同社全面支援のもと**、すべてのメーカーとすべての装置を対象とした**サードパーティ・メンテナンス・サービス**の会社として、**1988年8月31日独立**し発足致しました。

日本CDCは、コンピュータとHDD事業の撤退にあたり、お客さまを救済するとう考えから、メンテナンス部門に所属していたエンジニアの独立支援を行い、株式会社ワークマンシップ設立に合わせ、全保守事業を弊社に委任されました。

CDC からの Takeoff: 離陸

弊社は、Control Data Corporation (CDC: 本社 米国ミネアポリス) が1988年春にHDD Div.の売却 (Imprimis 社へ移行後) やその他ビジネスの閉鎖を打ち出し、ETAスーパーコンピュータビジネスまでも閉鎖し、すべての社員解雇などが明るみになった時、社員であった現社長が CDC Japan (日本シーディーシー株式会社) と交渉の末、ビジネスを買い取ってスタートしました。

当時の CDCJ (日本シーディーシー株式会社) 社長が、CDC の製品を使用されているお客さまを感させないことを第一に決断され、同社の全面支援を受けて、北は旭川から南は鹿児島・沖縄まで点在している装置のオンサイトサポートを、1988年8月31日から開始しました。まだバブル景気の最中で、しかも貸し事務所は山手線の内側では数万円/坪以上で、当初は CDC の高島平工場の一部を間借りしてのスタートでした。これは本사를 広島に置くことを決断した理由の1つでもあります。

当時、同社エンジニアリング・サービス部の一技術者でありましたが、現場を多く経験して“メーカーからサポートを受けられなくなり、止むにやまれず設備・装置などを廃棄する”という声が多い中、永年考えた上での起業は、“お客さまが廃棄するまでサポートを継続する”ことを主な目的とする修理会社でした。3rdパーティ・メンテナンスとはいえ、当初は殆どがCDC製品のみでしたが、やがて少しずつ他社製品にも広がりを見せてまいりました。コスト削減の対策は、修理後のリコールを無くすことで解決出来ると予想し、壊れないための“予防保守”を最重点課題とし、常に質の高い修理を目標に取り組みできました。修理の完遂や修理後の安定性能など、お客さまに喜んでいただくことでの達成感と満足感は何物にもかえがたいものがあります。

Transition: 変遷

コントロール・データ・コーポレーション (略CDC) は、STAR, CYBER205, ETA10 などのスーパーコンピュータから汎用コンピュータ (3000Series, 6000Series, Cyber73X, Cyber17X) まで、特にアプリケーションソフトウェアを含め科学技術用のコンピュータのメーカーとして、CDCからスピニングアウトしたクレイ (CRAY) と共に、コンピュータ、HDD及び関連装置の技術など、一時代を築きました。

その他、磁気テープ装置、磁気ディスク装置、プリンター等あらゆる機器の総合メーカーでもありましたが、ダウンサイジングの影響により、光ディスク部門はフィリップスから Plasmon へ、磁気ディスク部門はインプリミスとして 1988 年分離、その分離した子会社を 1989 年シーゲイトへとそれぞれ売却され、CDC は ControlDataSystems 社 (のちにBT社に売却) と Seridian 社に分割されました。これによって、CDC はスーパーコンピュータ、ハードディスクなどすべてから 1989 年に完全に撤退いたしました。

大型コンピュータメーカーの競争で、IBM社に対抗して BUNCH (Burroughs, UNIVAC (現 UNISYS), NCR, CDC, Honeywell) 連合を組んだこともありましたが、今ではChip製造会社がコンピュータメーカーになるなど、すっかり様変わりしました。

ControlDataSystems, Seridian, Ontrack, RaidionSystems 社などを含め、名前は変わりましたがシーディーシー時代の製品、技術は、今なお高速大容量として生き続けております。

あらゆる技術は突然生まれるものではなく、着々と積み重ねられて今日が築かれており、今日の技術もやがては過去のものとなってゆきます。これら技術の歴史を学ぶ事も重要なことで、古いものを理解して新しいものを修理することで原理や進化が判り、問題の発生予想も可能となります。この進化とは、高速化、大容量化、小型化であり、製品を作る製造・検査装置の精密化によって生まれます。

Strategy: 計画

手間のかかる Maintenance という Business を主体として、システムの Add-On や Integration の製品販売を、安全に且つ長期に運用を希望するお客さまに対して行います。チェンジニアではなく、エンジニアを養成しながらの遅々とした一歩一歩は止むを得ない所です。製造や修理など、製品の質はそれに関わる人間の質に依存するところが大きいが故、全てにおいて手間がかかるものです。現在においてはあらゆるところで Cost や価格が優先されている結果、さまざまな問題で Top が頭を下げるにつながついていると思われます。結局、高価な Cost となり、会社が危うき事態となります。

Ascending: 上昇

1. 修理・保守サービス: メーカーの技術及び技術情報を基に、あらゆるメーカーのコンピューターのみならず、磁気ディスク、磁気テープ、プリンター等各種装置の修理、保守サービス等のメンテナンス業務を事業の1つの柱とし、サービスメニューはお客様の要求の都度、見直しと追加がなされております。その結果、お問い合わせ数と取り扱い品種の増大を続けております。弊社の持つ技術情報や海外の部品調達先が増え、以前にも増してお客様に満足して頂けると確信しております。

この保守サービスは、お客様の装置が廃棄されるまで継続するという堅い信念で今日までサービスを続けており、お客さまの救済は弊社の一番の理念で、会社を大きくすることを目指しておらず、サポートや製品の品質を高めることを最大のテーマとしております。

永年の経験を十分に生かした、プロフェッショナルの技術集団が、我が社の中核を成しこの分野での高度な技術と知識に関しては、国内でも多くのユーザーから、極めて信頼性の高い保守サービスであると評価を得ております。

製品の質はすなわち、それを扱う人間の質であることから、技術力のレベルと情報及び知識に関する高度な水準及び、高いモラルに重点を置き、技術及び良識人としての育成に力を注ぐことが最大の要素と考えており、世間で問題になるケースなどを事例に上げ、今後も業務の拡大及び品質、技術とサービスの向上および技術的諸問題の解決に努めて参ります。

各種ワークステーションに使われている NVRAM を、10 年先あるいはそれ以上の年月サポート可能になっております。

2. 販売サービス: 営業部門では、製造中止となりサポートを受けられなくなった (EOL/EOSL) コンピュータや周辺装置、保守部品、メディア、消耗品など、他から入手が困難となったコンピュータ (Workstation, PC, Single Board) や種々の装置、及びそれらの部品の調達を米国に点在する代理店のネットワークを経由し、良い物を長期に、安価で、早く供給しています。これらは、お客様の”ネック”こそビジネスという考えから営業部門にて調査・販売しております。

弊社では、Workstation、PC その他の関連機器を長くご使用可能にするため、さまざまな処方を施しております。例えば、

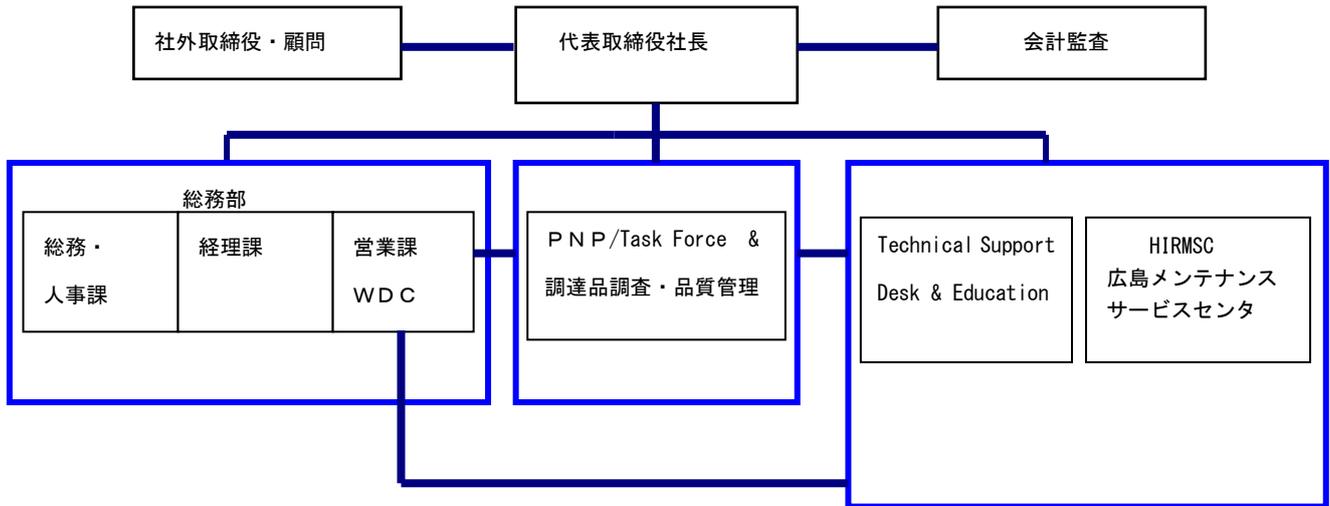
- ・装置内の FAN を汎用代替、風量の大きなものへと交換、あるいは Bearing 交換にて対処。
- ・寿命に限りある液体・固体電解コンデンサを長寿命で最高動作温度が高いもの、場合によっては耐圧の高いものへ交換。
- ・過去の履歴により、FC0/EC0 の導入にて改善策を施す。過去の履歴は、顧客、装置や Parts で管理し、履歴によって修理の処方や使用される Parts を最良にすべく努力しております。
- ・代替同等 computer の組み上げ・お貸出しによってお客様の設備機器の延命を図っております。
- ・NVRAM や RTC など、10 年ほどの寿命で製造中止となった CHIP の代替・改造などによって機器の延命を施しております。

修理は少量・多品種であるがため、Engineer は Changeneer ではなく、さまざまな手法で Recover の努力をいたします。

株式会社ワークマンシップでは、お客様の需要に添った、サービスの提供が可能です。

弊社の業務は華やかではありませんが、今後もお客様のご要望にお応えできるよう、“コンピュータ分野での駆込寺”となるべくさまざまな情報収集を行い、更に幅広い体制作りを目指し、保守業務の拡張及び技術、品質とサービスの向上に努めて参ります。

組織図



弊社では EOSLed の製品修理を承っております。

PNP: Planning the Next Products (新規保守契約や顧客の開発・開拓、調達品調査、品質管理、一般教育)

Technical Support Desk & Education (技術支援・技術教育)

営業課/WDC: Workmanship Distribution Center (O/H 済製品や部品販売、在庫管理、製品や部品の調達と社内への供給、輸出入、KARTE による装置情報の管理など)

HIRMSC: Hiroshima Maintenance Service Center

HIRMSC では、お客様と communication を取りながら不良個所の特定、修理・保守、製品および部品検査、出荷などを進めます。

修理品の入荷受付から出荷まで、MSC の staff が責任をもって行います。

お客様の装置・機器は Model 名と Serial により、使用されている部品の構成や部品番号、NVRAM 値、故障と修理の履歴など、KARTE と共に保存管理しております。

第1期 8/31/88~7/31/89

第2期 8/31/89~7/31/90

第3期 8/1/90~7/31/91

第4期 8/1/91~7/31/92

販売を主に Shift

第5期 8/1/92~7/31/93

第6期 8/1/93~7/31/94

第7期 8/1/94~7/31/95

販売が売上全体の60%

第8期 8/1/95~7/31/96

第9期 8/1/96~7/31/97

第10期 8/1/97~7/31/98

第11期 8/1/98~7/31/99

第12期 8/1/99~7/31/Y2K

I R (Investers Relations)

= 日本シーディーシー(株)の全面バックアップを得て、CDC社製品の保守を開始。

主に14インチのリムーバブルディスクと OpenReel テープ装置。CDC社製5.25, 8, 9
インチドライブも追加。設立が8/31のため、第1期は11ヶ月+1日で決算。

=

= 第1, 2期の継続と人員増による保守のマーケット拡大戦略。1~3期までは旧製品の保守が引き続き多い。

= CDCを始め、旧製品の保守が減少。ミラーサブシステムの製品組上販売開始。

Micropolis 社の代理店としてHDDを販売開始。UNIXマガジンにてセールス

= 1ペアのSCSI HDD 最大1GB Mirror装置モデルM の販売を企画

= 1GB HDD1台が\$1,000 超の価格の時代でのミラーMXを販売。7ペアまでサポート。

1,000 万から 4,000 万に資本増資(1993 年 12 月)。主たる増資理由: 弊社は新たな製品の販売拡張に当たり、必ず事前評価機の購入と十分な精査を行い、将来にわたってサポートが可能あるいは代替が可能なもののみ“GO”サインを出しております。代替品も併せて購入、評価あるいは販売に能わずなどで在庫費用がかさみ、検査に必要な機器、ソフトウェア、部品などを取りそろえるため、常に費用が必要になります。

販売以外にも新たな製品の保守のための投資、これは計測器、Tester、部品、予備装置などへの新規投資が急激に必要になりました。増資分のほとんどが機器や在庫となっております。

= Micropolis 社のレイド RAIDION LTX を販売開始

富士ゼロックス社 EDMICS 部門でミラーMX、RAIDION の販売を委託。Micropolis 社 5.25”HDD モデル 1991 のメディアエラー多発。メディア不良は 9GB 中 8GB 以降に多発、モデル 3991NT 3.5”へ弊社負担でリコール

広島では、10/2/94 から始まったアジア大会による経済効果を期待されたが全く効果なし。

=

= 96/12月発売の Micropolis Tomahawk 4345/3391 3.5”HDD の不良率が大。

1991のリコール代替品 3391NT(Tomahawk3391)も不良多発。97/2月 日本Micropolis 事務所を3日間で閉鎖に立ち会い。

= 6月ビッグサイト データウェアハウス '98 に 2 ブース出展。

97/12月 Micropolis 社倒産。発売開始からこの症状があったが、検査してパスしたもののみ出荷。しかし、LOT 97年5月製造品からパスしないものまで出荷し、12月に世界中の事務所を同時閉鎖。弊社社長はMinneapolisのM製品 Distributer 社に滞在中に知る。

= 98/8月弊社は Micropolis 社 Tomahawk4.3GB 及び 9.1GB はレイドに使用不適と判断。故障内容と行動から判断すると、M社は同トラブルにより意図的倒産が明白。レイドはすべてオンサイトで Seagate に交換。

(しかし弊社検査担当者たちの無・低能力によって、出荷されてしまった責任は大きく、リコール開始するとともに理念にそぐわない社員たちとの雇用契約解除。弊社は製品と修理の品質のため、常に人選を行っています。太平洋戦争時、Midway 海戦で失った1番大切なのは大型空母5隻ですか?いいえ、着艦出来ずに亡くなった鍛えられた多くの優秀な Pilot と乗組員達です。物は再度作れますが、優秀な人材を作るには良い素材と永い訓練・教育が必要です。弊社は当初から、雇用契約はフリーエージェントの資格が権利として社員側にあり、会社側には自由契約の権利があるとの条件で雇用契約を締結し、権利と義務を明確にしております。社内での情報公開も明確に行っております)

1999年4月より退職金制度の改定。それまでの退職金をすべて支払い、以降退職金前払い制度として4月から隔月に支払われるため、将来に清算なし。職能力に応じて加算されて行く仕組。支払い累計を給与明細に明示。

= 市場は廉価ATA HDD のレイド品が主流でSCSILEIDの販売不振。リコール終息。

第13期	8/1/Y2K~7/31/2001	=
第14期	8/1/01~7/31/2002	=Feb./2002、TOKMSC は蔵前から浅草橋へ移転。
第15期	8/1/02~7/31/2003	=03/1月、広島、富士ゼロックス社とジョイントで展示会。 9月、大阪インテックスと10月、東京ビッグサイトでの中小企業庁主催のベンチャフェアに出展。11月、広島中小企業会館にて販売製品と保守サービスについて展示説明会 AV用レイド、高品質なりダウンドレイドなど新発売。長期サポートを付加。 保守の長期サポートと、製品・部品など調達のを拡大。
第16期	8/1/03~7/31/2004 修理・保守重視へ軌道再修正 子会社(有)コントロール・ウエアを統合	=04/1、ホームページ内容を修理・EOSL 製品のサポートへと全面書き換えて再スタート。 調達品種はさらにさらに拡大。長期使用をサポートするために、弊社は レガシー製品や部品のサポート・修理、調達をメインにするよう軌道修正。 弊社が販売したレイドでは、7年経過してもサポートが継続されております。300MB、ST506,ESDIあるいは14インチのドライブなど、どこでサポートしていますか？ ニッチなマーケットで仕事をしながら、より良い質の修理サービスおよび部品・製品を納入すべく、技術者が深く広いレベルに到達するよう、ゴミの3Rを念頭に、情報の開示はすばやくなどを心がけております。 製品、サービスの質はそれに関わる人間の質そのもの ですから、 質を高く維持するにはまず人の質を高める ことが一番重要と常に考えております。
第17期	8/1/04~7/31/2005	=10/2004 東京ビッグサイトにて産業交流展に出展。テーマは Legacy 製品の保守サービスが必要なお客さまを開拓。旧製品を展示しましたが、昔を知る多くの方々の驚きを目にいたしました。若い方からは 14 インチ HDD (CDC XMD)を見て“最新の HDD ですか？”との声も。 17期 はEOSLのHewlette Packard (HP)社、SunMicrosystems 社、DEC、IBM製品のWorkstation本体および周辺機器の修理、調達が増加。 PCではIBM PC、DELL,NEC PC-9801、9881N、9811Lなどの調達あり。 HP社の 14 インチDiskDrive 7906B/D/Hなどを新たに保守メニューに追加。オーバーホールなどを含め TOKMSC での作業準備。DLT、4/8mmTape 装置の修理が増加 販売は、SCSI/ATA RAID機種を縮小。SCSI/SCSI RAID機種も統合整理。 レイドレベル5からレイド1への製品に Shift。 2005年4月からの個人情報保護法施行にあわせ、社員と会社間での新たな契約締結。従来の上社時における誓約書は、民法上の時効による失効から効力を無くすため、規則、法の遵守義務などを定めた契約締結と、契約更新を一定期間毎あるいは法改正ごとに行う様に改定。
第18期	8/1/05~7/31/2006	=10/2005 前期同様、東京ビッグサイトにて産業交流展に出展。 テーマは“Legacy 製品の保守サービスが必要なお客さまの開拓”。 Web からの問い合わせが増加。メーカーのサポート終了製品(EOL/EOSL)の保守・調達に全力を注ぎ、保守に専念。FDD Tester 導入。PSE 法用検査機器導入準備。 4/2006 高齢者雇用安定法改正に伴い、就業規則で継続雇用を 65 歳までに修正。HP 社 14 インチ HDD 7906 の修理依頼が増加。
第19期	8/1/06~7/31/2007	=前期同様の保守を継続。システムインテグレーションや、フォルトトレラント性の向上などの保守および装置販売、ADD-ON を Offer。Tape装置の修理は微増でも AutoLoader は増加傾向にある。SUN workstation (SUN3からUltra)のNVRAM作成、本体修理などが拡大。
第20期	8/1/07~7/31/2008	=Legacy 製品の保守・部品調達への業務割合がほぼ100%に傾倒する予定。新製品販売を縮小。10/2007 東京ビッグサイトにて産業交流展に出展。NVRAM の入手は新しい DateCode、高品質、短納期の販売元と Tieup。TOKMSC増員の必要にて人員募集。
第21期	8/1/08~7/31/2009	=HIRMSCも人員募集。HP社の 14 インチ HDD 7906B/D/Hなどのサポート終了。 100年に一度の世界不況、Reduce-Reuse-Recycle の環境に合わせ、修理サービスの拡充のための人員増を実施。修理などの需要は増加。

第22期 8/1/09~7/31/2010

=コンピュータ各社の EOSL 製品に的を絞り、保守と既存設備への Fault tolerancy、Renewal、インテグレーションなどで延命と故障による停止の回避などを奨めます。今 22 期末を最後に、新規の RAID サブシステムや PC Server などの販売はすべて中止いたしました。そのため、Warranty の残っているものを除き、販売の製品在庫品の大量廃棄を行いました。

第23期 8/1/10~7/31/2011

=弊社東京/TOKMSC の人員拡充を行いました。その結果、HP 社製 EOSLed の製品修理の巾が広がり、納期の短縮が可能となりました。

第24期 8/1/11~7/31/2012

=手狭となった東京事務所移転を 7/21, 22 で行い、7/23 より新住所で営業開始。HDD copy 装置の販売を 2012 年中に開始予定。今期も販売用の在庫の廃棄と 14inch/8inch/9inch Disk (CDC)、Open Reel tape drive の parts や board を廃棄。

第25期 8/1/12~7/31/2013

=今期は top として区切りの期との位置づけで、これからの 10 年の方向付をします。Printer のサポート終了。

第26期 8/1/13~7/31/2014

=TOKMSC、HIRMSC の増員が急務でしたが適わず。消費税増の影響少。

第27期 8/1/14~7/31/2015

=今 27 期は CDC 社と Fujitsu 社製 8, 9, 14 インチの Disk 装置及び Parts を廃棄。9 インチは HP、14 インチでは 9762/SMD80 (CDC) と HP7906 を引き続きサポート中。今期も TOKMSC、HIRMSC の増員が適わず。

第28期 8/1/15~7/31/2016

=東京の増員が急務でしたがかなわず。

第29期 8/1/16~7/31/2017

=TOKMSC の人的投資を継続。HIRMSC の増員もかなわず。Bubble と労働者減が深刻。

第30期 8/1/17~7/31/2018

=様々なものに challenge、周り道をしながら 30 周年。今期から販売、修理の保証期間の変更。HIRMSC の増員を行いました。

第31期 8/1/18~7/31/2019

=増員済。昨年 6 月の米中貿易戦争の影響を少なからず受けたか。

第32期 8/1/19~7/31/2020

=保証期間を延長。2020 年 1 月からの CORONAVIRUS 蔓延によって落ち込む。

第33期 8/1/20~7/31/2021

=CORONAVIRUS 蔓延により経済停滞の影響があり、落ち込み大。

第34期 8/1/21~7/31/2022

=CORONAVIRUS 変異株の蔓延下、業績に若干の改善がみられた。

第35期 8/1/22~7/31/2023

=変化なし。

第36期 8/1/23~7/31/2024

=TOKMSC の増員ができず HIRMSC に作業を集約、広島では増員済。

第37期 8/1/24~7/31/2025

=TOKMSC の賃料が大幅値上げのため、広島へ移転し、TOKMSC は閉鎖。

東京に新たに Technical Support Desk を開設。

******* 株式会社ワークマンシップの主な事業内容 *******

コンピュータや周辺機器など、メーカーが取扱いを中止したものを主に取扱います

1. 販売

- ◆ 米国製コンピュータ保守用部品
- ◆ Workstations UNIX (SUN , SGI , IBM , HP , DEC , DELL)
- ◆ RAIDサブシステム (組み立て、オーダーメイド)
- ◆ RAID用、外付用 HDD
- ◆ ターミナル (DEC , IBM , TELEVIDEO , Wyse 他)
- ◆ 大型ディスク装置及び部品 (HP)
- ◆ 小型ディスク装置 (Seagate, MAXTOR, IBM, Hitachi 他)
- ◆ エンクロージャ (筐体) HDD用, Tape装置用
- ◆ その他ディスク装置 (米国製 SCSI, ST412/506, SMD, ESDI, HP-IB)
- ◆ 3.5" , 5.25" ディスク装置の筐体及び電源 :
- ◆ ホストアダプタ (ADAPTEC , QLOGIC)
- ◆ リムーバブルトレイ、レシーバー
- ◆ ディスク用ケーブル・取付金具・付属品
- ◆ 電源 (単体、レイド用) Zippy, SkynetElec 他
- ◆ WORKSTATION, PC用Memory
- ◆ DLT, LTOドライブ、オートローダとバックアップソフト
- ◆ 1/4 (QIC) インチ・カートリッジ
- ◆ 8mm・Exabyte, AIT
- ◆ 4mm (DAT) DDS
- ◆ テープメディア (1/4 (QIC) 1/2, 8mm, 4mm, DLT, LTO)
- ◆ テープクリーナ装置
- ◆ フロッピー (Floppy Disc) ドライブ (5.25/3.5 インチ)
- ◆ Network 関連製品 (Cisco, 3COM, ADC/Kentrox, Alcatel/Xylan, Ascend/Lucent, Avaya, Baynetworks/Nortel, Cabletron/Enterasys, Digital, Digital Link, Xylogics/Extreme Networks, Fore/Marconi, Foundry, IBM, Intel, Juniper Networks, Larscom, NBASE, Olicom,)
- ◆ 大容量 ATA (IDE) HDD を認識しない MotherBoard 用 HDD

2. 保守

- ◆ UNIX コンピュータシステム/SUN, HP, IBM/RS6000, DEC Alpha 他
- ◆ SUN/SGI/PC/RAID NVRAMの再作成
- ◆ 無停止型 (ノストップ) コンピュータ
- ◆ 各社 RAID サブシステム及びディスク装置
- ◆ CDC (CONTROL DATA, MPI) 製 3.5" , 5.25" ディスク装置
- ◆ SEAGATE/Maxtor/Conner 製ディスク装置
- ◆ HITACHI/FUJITSU/IBM 製ディスク装置
- ◆ HewlettPackard (HP), DEC 製ディスク装置 (MAC, HP-IB)
- ◆ その他ディスク装置 (米国製全製品) : 2.5, 3.5~5.25inch/
Interface : ST506/412, ESDI, ATA, SCSI, FC
- ◆ ターミナル (DEC, IBM, TELEVIDEO, Wyse, Qume 他)
- ◆ テープ装置及び部品 (HP, IBM, Quantum, Exabyte, WangDat, Tandberg/Datar)
- ◆ DLT, SDLT, LTO オートローダ及びドライブ
- ◆ 1/4 インチ・カートリッジ (QIC)
- ◆ 8mm・Exabyte, AIT
- ◆ 4mm (DAT) DDS
- ◆ フロッピー (Floppy) 5.25/3.5 インチ
- ◆ シングル・エンディッド (SE) の HDD
- ◆ NARROW (50PIN) /WIDE (68PIN) /SCA (80PIN)、IDE/PATA、SATA・SAS などの Serial I/F、FC/FibreChanel
- ◆ Network 関連製品 (同左)
- ◆ SCSI HDD の容量変更: 76/146GBなどを数MB~1GB, 2GB, 4GB, 9GB, 18GB, 36GB あるいはそれ以外の容量へ変更。
容量は 1Block (セクタ) 単位でお客様のご希望値に設定致します。
付録の容量をご参照ください

=====

- ◆ 入手が困難と思われる電子機器部品・製品・メディア・工具の調査・調達・入手及び保守を承ります。
- ◆ 弊社の販売した製品については、全製品について保証・修理に責任をもって行います。
修理の納期については機種により、多少の差が生じます。
- ◆ 製品・装置は世に出たときが最高のものではなく、さまざまな改善・改良・アフタケアを必要とし、手を加えることで延命を図ることが出来ます。
- ◆ 米国製コンピュータ及び関連製品部品の調達は、可能な限り調査し、入手致しますので、諦めずに弊社営業課宛に連絡頂きたいと存じます。

お問い合わせ先 : 株式会社ワークマンシップ <https://www.workmanship.com>

本社 営業 sales@workmanship.com

広島メンテナンスサービスセンター hirmsc@workmanship.com

〒731-5133 広島市佐伯区旭園 3-33 アルティメイト building 五日市駅前 3F

TEL (082) 924-4044 / FAX (082) 924-4144

概要

会社名
(英文名)

株式会社 ワークマンシップ
WORKMANSHIP Co., Ltd.

<https://www.workmanship.com>

所在地

本社 広島市佐伯区旭園3番33号
アルティメイト building 五日市駅前3F (〒731-5133)
電話: 082-924-4044 (代表)
FAX: 082-924-4144
email: ws@workmanship.com

営業 広島市佐伯区旭園3番33号
アルティメイト building 五日市駅前3F (〒731-5133)
住所・電話・FAXは本社と同じ
email: sales@workmanship.com

事業所 / 広島メンテナンスサービスセンター (HIRMSC)
住所・電話・FAXは本社と同じ
email: hirmsc@workmanship.com

設立

1988年8月31日
設立にあたって、日本CDC株式会社よりCDC (Control Data Corp.) 社の装置すべてとコンピュータの保守について正式に委任を受けました。

資本金

4,000万 (払込)

代表取締役社長

遠藤 英明

取引銀行

みずほ銀行 三菱UFJ銀行 もみじ銀行 広島銀行 広島信用金庫

PL保険

AIU/ 加入金額 300,000,000円

日本輸出入者コード

P001HK510000 (2018/10より12桁)

■本 社 / 営業所 : sales@workmanship.com

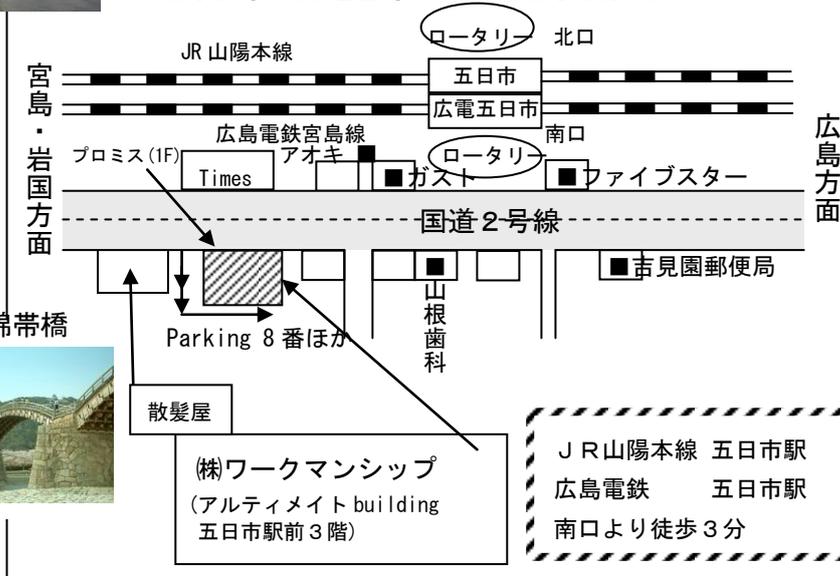
■広島メンテナンスサービスセンター : hirmsc@workmanship.com

〒731-5133 広島市佐伯区旭園3番33号 アルティメイトbuilding 五日市駅前3階

電話 : (082) 924-4044 FAX : (082) 924-4144



弊社は広島中心部と宮島の間位置しております



(株)ワークマンシップ
(アルティメイト building
五日市駅前3階)

J R山陽本線 五日市駅
広島電鉄 五日市駅
南口より徒歩3分